

「競基弘賞」実施計画

- * **表彰時期**
毎年1回、1月中旬(1月17日前後)に神戸で執り行う。
- * **募集期日**
9月末日
- * **募集対象者**
応募時に40歳未満の研究者・技術者とする。
- * **賞の内容**
「競基弘学術業績賞」、「競基弘技術業績賞」の受賞者には、賞状と副賞が授与されます。

賞の規定や毎年の実施スケジュールなどの詳細につきましては、事務局にお問い合わせ下さい。または当機構のウェブサイトでご確認下さい。 <http://www.rescuesystem.org>

募金計画

- * **募金額**
個人 1口1千円 (5口以上で、
お願い致します。)
法人 1口1万円
- * **納金方法**
同封の振込用紙で郵便局にお振込みください。
- * **募金期間**
平成17年4月15日より受付開始
- * **振込先**
口座番号 00290-0-61912
口座名称 NPO法人国際レスキューシステム研究機構

(注)税務上の措置
個人、法人による特定非営利活動法人(NPO法人)への寄付金は、税務上の優遇の対象にはなりません。

問合せ先 TEL: 044-542-1036
FAX: 044-542-1061
info@rescuesystem.org

国際レスキューシステム研究機構 (IRS) は、ロボット技術・情報技術などの先端科学技術を用いた災害対応の高度化とその普及を図るために、研究者を中心として設立された研究開発型NPOです。毎年、レスキューロボット・システムのデモンストレーションと国際シンポジウムを開催し、研究成果を広く公表しています。文部科学省のプロジェクトに参加し、実用化に向けたロボット等の研究開発を行う一方、研究開発奨励の一環として、2005年1月17日に、「競基弘賞」を創設しました。この他に、神戸市、神奈川県等の自治体と協働事業などを行っています。



イラスト 京都大学大学院 坂東麻衣

特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構

川崎オフィス

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町66-20
川崎市産業振興会館12階
TEL: 044-542-1036 FAX: 044-542-1061

神戸ラボラトリー

〒653-0042 兵庫県神戸市長田区二葉町7-1-18
地域人材支援センター1階
TEL: 078-641-2840 FAX: 078-641-2841

URL: <http://www.rescuesystem.org>
E-mail: info@rescuesystem.org

きそいもとひろ

競基弘賞 募金趣意書



本賞は、1995年1月17日に阪神淡路大震災で23歳の若さで亡くなった競基弘氏の遺志を継ぎ、レスキューロボットやシステムの研究開発に顕著な貢献のあった若手研究者・若手技術者の業績を表彰するものです。

レスキューシステムの研究開発に
顕著な貢献があった若手研究者を表彰する
「競基弘賞」のご紹介

本賞は1995年1月17日に阪神淡路大震災で倒壊したアパートの下敷きになり23歳の若さで亡くなった、当時神戸大学大学院の博士前期課程の1年生であった競基弘氏にちなんで、レスキューシステムの研究開発に顕著な貢献のあった40歳未満の若手の研究者を表彰し、研究開発を奨励することを目的とした賞です。競基弘氏は神戸大学大学院で視覚と力覚を融合したロボットによる知的マニピュレーションについての研究をしており、将来は人を癒すロボットの研究開発に取り組む夢を持っていました。本賞は競基弘氏の遺志を継ぎ、人を助けるレスキューに関連するシステムの研究開発に対する業績を表彰の対象としています。

本表彰事業は特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構の事業のひとつとして、阪神淡路大震災から10年を経た2005年1月17日から開始し、選考委員会の議を経て受賞者を決定し、年1回授賞式を執り行う予定です。自薦他薦を含めて幅広く候補者の推薦を募り、防災、情報、ロボット、医学、心理学などのレスキューシステムに関連する各分野から選ばれた委員により構成された選考委員会で厳正な審査を行い、受賞者を選考するいたします。本事業は、趣旨に賛同いただける関係各位からの寄付によりその表彰活動を行う予定です。

皆様のご賛同を頂きたくお願い申し上げます。なお、選考規定、推薦方法、寄付方法などは、特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構のホームページに掲載するとともに広く情報を開示いたします。

平成17年1月17日

特定非営利活動法人
国際レスキューシステム研究機構

競基弘賞創設ご支援のお願い

阪神・淡路大震災から10年を迎えました。あの日、新聞記者に採用されることが決まっていた方、友人と将来の住宅の設計図を仕上げていた方、そしてロボット研究に燃えていた競君ら、神戸大学では41名の、後に神戸大学海事科学部となった当時の神戸商船大学では6名の、有為の若者を失いました。痛恨の極みであります。

当時、競君の指導を行っていた松野文俊先生と国際レスキューシステム研究機構の発案で、このたび、彼の意思をつぐために表彰制度ができますことは、我々、神戸大学の関係者にとっても感慨の深いものであります。この賞に刺激されて競君の夢が実現に近づくことでしょう。ぜひともご支援を賜りますようお願いいたします。

神戸大学理事・副学長
北村新三様

当時、長男基弘は神戸大学大学院生で神戸市灘区六甲町の木造2階建て住宅の1階に住まいしておりました。1995年1月17日午前5時46分、阪神淡路大震災により下宿の1階はつぶれ、23才でその短い人生を終え彼岸に旅立ってしまいました。

基弘は、大学でロボットを研究分野としておりました。彼は幼い頃テレビで、子供達の夢をかなえてくれる人気者「ドラえもん」を見て育ちました。人間の心を癒す「ドラえもん」が彼に与えた影響は大きかったと思います。遺体の枕元から「ドラえもん」のぬいぐるみが出てきました。彼は、人の役に立つロボットを作ることを夢見ていたと聞いています。志し半ばで無念であったろうと思います。

震災から10年をむかえた2005年、国際レスキューシステム研究機構で基弘の名を冠した賞を創設したいとお話をいただきました。研究者として立派な業績を挙げ得ないままの彼に対しての余りの名誉ではないかと思いましたが、この賞が6433人の方が亡くなられたあの災害を忘れないひとつの記念碑となれば誠にうれしい限りです。「人の役に立つロボットを」と願った基弘は、人命救助という研究分野において自身の名で関わることができることを感謝し、そして災害時に一人でも多くの人が救われてほしい、この賞にそんな気持ちを込めているに違いありません。

昨今、新潟中越の大地震、スマトラ島沖地震による大津波等、自然災害が地球規模で続いており、災害への備えは急務であり、国際レスキューシステム研究機構の果たす役割は世界的に益々重要となっております。しかし、未だ、研究は揺籃期にあり、これから優秀な若手研究者を沢山必要としていると聞きました。

より多くの人々が救われるためにレスキューシステムの発展を心から願っております。また、一人でも多くの方にこの賞にご賛同いただければ幸いに存じます。

競 和巳様

競基弘君のこと

阪神大震災で神戸大学の教官職員学生あわせて41名が犠牲になった。このうち学生は39名で競君はそのうちの一人であった。私は研究室は違ったが、講義や演習で競君は印象に残っている学生であった。留学生にも慕われ彼らからの追悼の辞も書かれた。いまでも彼の笑顔は目に浮かぶ。前途有為な若者の死は、その将来に無限の可能性を秘めているだけにつらく、万感の思いで胸に迫る。

このたびレスキューシステムの研究開発に顕著な功績のあった若手研究者を対象に競基弘賞を設立するという趣旨は、競君の果たせなかった志に代えるものであり、心から賛同するものである。短かった彼の生涯を長く記念するためにも、ぜひこの基金設立の成功を祈るものであり、大方のご協力をお願いしたい。

神戸大学名誉教授 平井一正様

阪神淡路大震災の数ヶ月前に開催された日本ロボット学会で研究成果を発表し、その打ち上げを二人でした博多の居酒屋で、将来の夢を目を輝かせながら語っていた君の思いを、残された我々が少しでも実現できたらと思っています。

国際レスキューシステム研究機構 副会長
電気通信大学教授 松野文俊
・・・神戸大学での指導教員

「友情」や「絆」を何よりも大切にしている基弘君の周りには絶えず多くの仲間が集まっていた。この賞を通じて、この分野における数多くの優れた研究者の方々が「絆」を深められるきっかけになればと思います。

小出晋也様・神戸大学の学友

あの時、レスキューロボットが活躍していたら……。愛を持って人と接し、最後まで決してあきらめない彼の遺志を、世界中の人々に伝えることが私たちにできることです。

奈良崎武志様・神戸大学の学友

子ども達の野外活動リーダーとして、全身全霊関わっていました。子ども達をこよなく愛し、また子ども達にもいっぱい愛された競くんでした。活動の中で優しさの種を一人一人の心に植えてくれました。その種が様々に咲こうとしています。

小崎恭弘様・兵庫県子ども会連合会ボランティアのひとつ「冒険隊」のリーダー仲間